

中期経営計画（令和8年度～13年度）

～変わらない使命とともに～

令和8年3月

名古屋臨海高速鉄道株式会社

目 次

1	計画策定にあたって	1
2	現状・前計画の振り返り	2
3	新計画における基本戦略・取り組むべき課題	9
4	計画	10
5	輸送人員見込み・収支見込み	13

1 計画策定にあたって

当社は令和6年10月6日をもちまして、開業20周年の節目を迎えました。

これまでのあゆみを経営面から振り返ると、平成16年度の開業当初は予測を大きく下回る輸送実績と多額の初期投資を背景として大幅な赤字からのスタートとなり、その後も恒常的な赤字体質から脱却することができず、平成22年度に事業再生ADRを実施し、減資・減損処理を伴う抜本的な経営体制の見直しを行うこととなりました。

その後は、沿線における開発の進捗等を背景として輸送人員が徐々に増加し、平成23年度から令和元年度まで9期連続で経常利益を計上。コロナ禍による輸送需要の落ち込みにより令和2年度に赤字となるも、令和5年度には再度の黒字転換を果たし、今日に至っております。

このような経緯のなかで、当社では平成18年度より6次にわたる経営計画を策定して継続的な経営改善に努めており、直近の中期経営計画（令和5年度～7年度）においては、コロナ禍からの経営基盤の回復と継続的な設備投資の両立を図るべく、様々な取組みを進めてまいりました。

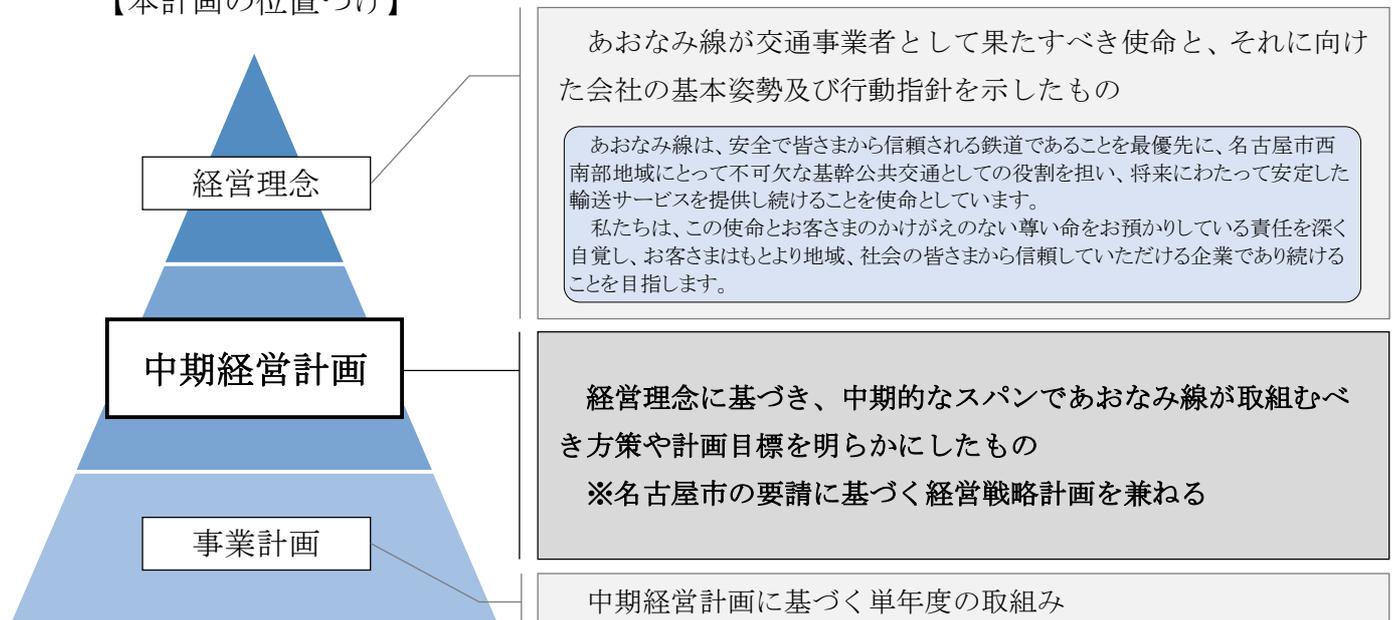
今回の計画策定にあたり当社を取り巻く現状に目を向けますと、人口減少社会の到来や物価・人件費の高騰、アジア・アジアパラ競技大会の開催など、当社を取り巻く社会情勢・経営環境が流動性を増していくとともに、開業から20年を経た施設・設備の修繕・更新、次世代を担う人材の確保、給与水準上昇への対応など、当社が事業を継続していくうえで検討すべき諸課題がますます顕在化しつつあります。

このような環境認識のもと、今回の中期経営計画については、前計画から基本構造と継続すべき取組み内容を継承しつつ、新たに生じる環境変化を踏まえた時点更新を行い、絶えず変わっていく経営環境の中で、経営理念に掲げる当社の変わらない使命を果たしていくための中期的な指針とするべく策定を行うものです。

計画期間については、全体として6年間（令和8年度～13年度）の取組み方針を示しつつ、このうち前半3年間（令和8年度～10年度）について具体的な計画目標を設定し、中長期的な視野に立った方針策定と時勢に即した柔軟な行動設定の両立を図るものとします。

また、前半3年間については名古屋市の要請に基づく経営戦略計画を兼ねるものとします。

【本計画の位置づけ】



2 現状・前計画の振り返り

(1) 輸送実績

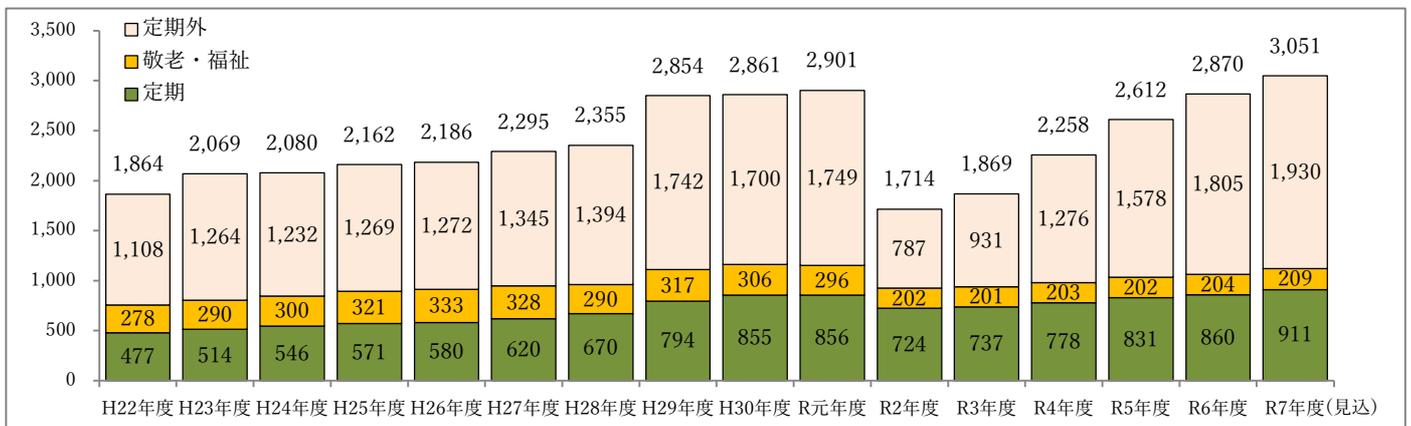
(ア) 輸送人員（1日あたり）

(人/日)



(イ) 旅客運輸収入

(百万円)

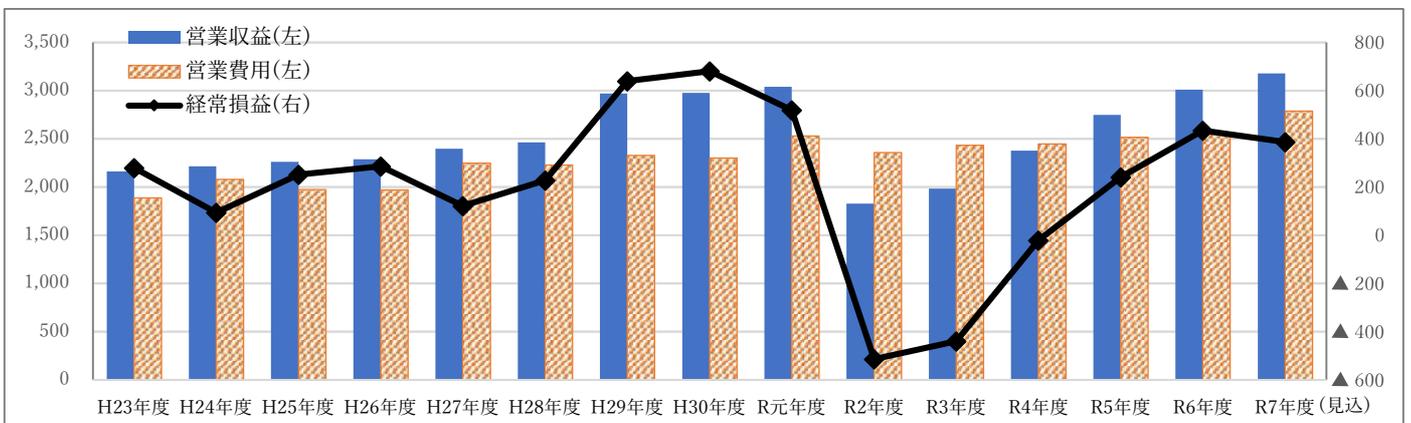


▶事業再生ADR実施後の平成23年度以降は、沿線開発の進展に伴い、輸送人員・旅客運輸収入ともに順調に増加してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の実績はADR実施前の水準に一旦落ち込んだ。

▶その後は回復基調が続いており、令和7年度は輸送人員・旅客運輸収入とも過去最高値を見込む。

(2) 収支

(百万円)



▶事業再生ADR実施後の平成23年度以降は令和元年度まで9期連続で黒字を達成

▶令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により赤字となったが、その後は回復基調が続き、令和5年度以降は再び黒字を計上している。

(3) 中期経営計画（令和5年度～令和7年度）の達成状況・評価

(ア) 計画の達成状況

① 輸送人員・収支実績

		令和5年度	令和6年度	令和7年度見込み
輸送人員	計画	41,400 人/日	41,900 人/日	42,900 人/日
	実績	40,296 人/日	43,086 人/日	45,686 人/日
旅客運輸収入	計画	2,728 百万円	2,759 百万円	2,839 百万円
	実績	2,612 百万円	2,870 百万円	3,051 百万円

		令和5年度	令和6年度	令和7年度見込み
経常損益	計画	62 百万円	101 百万円	67 百万円
	実績	239 百万円	433 百万円	385 百万円
設備投資額	計画	1,702 百万円	1,742 百万円	2,003 百万円
	実績	1,531 百万円	1,761 百万円	936 百万円

② 数値目標・行動目標

数値目標・行動目標（令和5～7年度）	達成状況
安全に関する教育・訓練の一層の充実による鉄道運転事故、輸送障害、インシデントゼロの達成	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 鉄道事故、インシデントゼロを達成 ▶ 当社に起因する輸送障害7件
安全に関わる施設・設備更新等へ約48億円を投資 <ul style="list-style-type: none"> ・ホーム柵更新：7駅実施（全10駅完了） ・電力貯蔵装置新設 ・電子連動装置更新 ・運行管理システム（PRC装置・発車標）更新 ・CTC装置更新 等 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 安全に関わる施設・設備更新等へ約37億円を投資 <ul style="list-style-type: none"> ・ホーム柵更新：7駅完了（全10駅完了） ・電力貯蔵装置新設：駅電気設備の機器室の浸水対策を優先検討 ・電子連動装置更新：令和7年度完了 ・運行管理システム更新：令和6年度完了 ・CTC装置更新：令和7年度完了
快適なサービスのための施設整備へ約5億円を投資 <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ洋式化：5駅実施（全11駅完了） 等 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 快適なサービスのための施設整備へ約4億円を投資 <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ洋式化：5駅完了（全11駅完了） 等
技術継承、後継者育成	▶ 職場研修等のノウハウ継承の取組みを継続実施
経常損益の黒字化及び継続	▶ 令和5年度に黒字化達成、令和6・7年度も黒字継続

(イ) 具体的な取組みにかかる振り返り

基本戦略		具体的な取組みの実施状況
①安全最優先の輸送サービスの提供	(ア) 運輸安全マネジメントに基づく取組みの徹底による、強固な安全文化の構築	<p>①重点目標等に沿った取組み</p> <p>▶重点実施目標を年度毎に定め、各部門において具体的な取組みを計画・実行するとともに、定期的な進捗確認の仕組みを取り入れた。より強固な安全文化の構築に向け、今後も継続的な取組みを要する。 【実施済（継続）】</p> <p>②ルール of 標準化・明文化によるルール遵守の徹底</p> <p>▶運転や災害対応等に関する各種マニュアルの整備を順次進めるとともに、継続的な見直しを実施した。より明確で実情に即したルール体系の実現に向け、今後も引き続き改善を進めていく必要がある。 【実施済（継続）】</p>
	(イ) 施設・設備の更新周期や新型コロナウイルス感染症の影響、長期的な収支見込みを勘案した計画的な維持・修繕及び更新	<p>①ホーム柵、運行管理システム（PRC装置・発車標）等の更新</p> <p>▶令和6年度までに全駅のホーム柵更新及び運行管理システムの更新作業が完了し、世界的な半導体不足などの課題を抱えながらも、既存設備の支障が発生する前に工程を完遂することができた。 【実施済（完了）】</p> <p>②レール更新計画、剥落対策計画等の推進</p> <p>▶令和7年度までに3,403mのレール取替を実施するとともに、7箇所の架道橋に対して剥落対策工事を実施した。 【実施済（継続）】</p>
	(ウ) 将来のあおなみ線を担う社員を確保・育成するための長期採用計画の策定、キャリア形成プログラムや研修制度等の継続的な見直し・改善	<p>①キャリア形成プログラムの確立</p> <p>▶上位職の業務を経験させる取組みを通じて意識醸成及び能力の開発を図った。今後に向けて効果検証を行いつつ、取組みの継続を検討する。 【実施済（継続）】</p> <p>②新規採用社員の研修制度の見直し</p> <p>▶職場間で連携しながら研修カリキュラムの継続的な改善を進め、より効果的な育成が期待できる研修体制を整えた。更なる改善に向けた取組みの継続を要する。 【実施済（継続）】</p> <p>③長期的な社員採用計画の策定・実施等による社員の確保</p> <p>▶社内各部門の人員・スキルのニーズを抽出・把握したうえで新規採用活動を実施するも、思うような成果が得られず、学校訪問、再雇用、社員からの声掛け、甲種内燃車運転免許取得に向けた他事業者調整など、様々なアプローチからの人材確保を試みた。今後も粘り強い取組みの継続が求められる。 【実施済（継続）】</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">①安全最優先の輸送サービスの提供</p>	<p>(エ) 危機管理体制の継続的な見直し・改善</p>	<p>①異常時対応体制の強化と訓練の充実</p> <p>▶災害復旧、不審者・不審物対策などの異常時対応訓練を実施するとともに、必要機材の配備を行い、非常時の即応体制を整備した。今後も訓練内容等を検証しながら、取組みを継続する必要がある。 【実施済（継続）】</p> <p>②事業継続計画の検証・改善</p> <p>▶災害リスクの変化、社内外の環境変化に対応できるよう、計画・課題の点検を毎年度実施し、継続的な見直しを実施した。今後も同様の取組みを続けていく必要がある。 【実施済（継続）】</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">②高品質なサービスの提供</p>	<p>(ア) DXを活用したご利用されるお客さまにわかりやすい情報の提供</p>	<p>①コンコース改札上への列車走行位置の表示</p> <p>②ホームページによる列車走行位置の提供</p> <p>▶令和6年度より駅コンコース階に設置した大型モニターへ列車走行位置情報等を表示するとともに、令和7年度からは同様の情報を当社ホームページを経由して提供開始。リアルタイムの運行状況を手軽に確認できるシステムを整えた。 【実施済（完了）】</p>
	<p>(イ) イベント等への柔軟な対応と安全で安心な輸送サービスの提供</p>	<p>①旅客指令業務の継続的改善、多客駅へのカメラ増設等により、イベント時の混雑状況の把握及び情報展開体制の強化</p> <p>▶令和5年度にカメラの増設を行ったうえ、効果的な運用に向けて対応方針の検討や取扱いの整理を実施し、混雑状況等を把握できる体制を整えた。 【実施済（完了）】</p> <p>②お客さまご意見の集約及び活用に向けた取組みの深度化</p> <p>▶金城ふ頭駅における暑さ対策や放置自転車対策などのご意見について随時対応するとともに、人員配置や情報共有方法を工夫し、より迅速な対応につながる体制を構築した。 【実施済（継続）】</p>
	<p>(ウ) 快適なサービスを提供するための社員教育の充実及び計画的な施設整備</p>	<p>①接客・接遇に関する社員教育の実施</p> <p>▶新入社員や駅務に携わる社員を対象として継続的な接遇研修を実施したほか、他業種との意見交換会などの取組みを通じて、接遇に関する社員の意識向上を図った。今後も引き続き実施を要する。 【実施済（継続）】</p> <p>②各駅トイレの洋式化</p> <p>▶令和5年度に3駅、令和6年度に2駅のトイレ洋式化工事を実施し、予定された工程を完遂した。 【実施済（完了）】</p>

③健全な経営の推進	<p>(ア)</p> <p>経営体制の検討等により、自然災害等の危機に備えた健全な財務体質の確保を図り、将来に渡って持続可能な事業形態を検討</p>	<p>①危機に備えた事業形態の検討</p> <p>▶火災保険等の自助的な備えに加えて、予期せぬ被害が発生した場合に必要な支援が得られるように自治体との連携体制の強化を目指し、継続的な働きかけを実施した。今後もアプローチを続ける必要がある。 【実施済（継続）】</p>
	<p>(イ)</p> <p>戦略的に収入増加を図るため、あおなみ線企画営業基本構想に基づく取組計画を策定・実施</p>	<p>①沿線施設との連携強化と魅力発掘による当社線のPR拡充</p> <p>▶リニア・鉄道館を始めとする沿線施設とのコラボイベントや、あおなみさんぽをはじめとした沿線でのイベントを継続的に実施するとともに、公式インスタグラムを新規開設した。当社線の更なる認識度向上に向け、今後も継続的な取組みが必要となる。 【実施済（継続）】</p> <p>②資産の有効活用による構内営業の強化</p> <p>▶イベント出展者や沿線施設利用者に向けた広告掲載の営業を推進するとともに、当社線の車両等をモチーフにしたオリジナルグッズを展開し、有形・無形の当社資産を活用して収益を向上させた。今後も内容の充実を図りながら、取組みを継続する必要がある。 【実施済（継続）】</p> <p>③開業20周年事業</p> <p>▶令和6年度に当社線の開業20周年を記念して、あおなみ線フェスタ始め16件の関連イベントを実施した。予定通りにイベントを実施することができた一方で、徐々に高揚感を得られるようなスケジュールの組み方等、次回の周年事業に向けた課題点が残った。 【実施済（完了）】</p>
	<p>(ウ)</p> <p>経費削減及び施設・設備の適切な維持管理による長寿命化・費用平準化</p>	<p>①業務形態・契約手続きの見直しやLED化等による経費削減</p> <p>▶必要部材の一括調達、保守委託契約の多年度化などスケールメリットを活かしたコスト削減や、車内・駅構内照明へのLED機器導入等のランニングコスト圧縮の取組みを通じ、より一層の経費削減を実現した。今後も取組みの継続を要する。 【実施済（継続）】</p> <p>②施設・設備更新の費用平準化や更なる長寿命化</p> <p>▶施設・設備の損耗状況や更新時期を考慮した計画的な修繕・更新を検討・実施した。コストの平準化に向け、今後も同様の取組みが必要となる。 【実施済（継続）】</p>

③健全な経営の推進	(エ) 各種補助金・助成金を積極的に活用及び適切な資金調達の実施	①設備更新等における補助金・助成金の活用 ▶ホーム柵の更新、案内表示装置の整備、駅構内トイレの洋式化等について、国および名古屋市からの補助金を活用した。 ▶その他に、コロナ影響や物価高騰等の社会情勢変動に伴う補助金について受入れを図ったが、獲得に至らなかった。【一部実施済】 ②必要に応じた資金の借入 ▶設備投資に伴う資金需要増に備えて、金融機関との協議を継続的に実施し、必要となる資金の調達を図った。【実施済(完了)】 ③アジア競技大会の機会を捉えた補助金の活用 ▶駅構内トイレの改修、駅構内照明のLED化等のアジア・アジアパラ競技大会に向けた改修・更新工事において、名古屋市からの補助金を活用した。【実施済(完了)】
	(オ) 社員がより積極的に健全経営の推進に取り組むような意欲向上策の検討・実施	①表彰制度・コンクールの拡充等 ▶令和5年度より「あおなみほめループプロジェクト」を実施。社員の間で互いの良い行いを伝え、広めることができる仕組みを通じて社員の意欲向上を図った。今後も取組みの継続を要する。【実施済(継続)】 ②社内における意見交換会の充実 ▶経営管理部門と列車運行に直接携わる部門の間で意見交換会を実施し、その際に過去に事故を経験した社員の体験談を冊子にまとめて所属を超えて共有するなど、社員の意欲・安全意識の向上に資する取組みを実施した。今後も取組みの継続を要する。【実施済(継続)】
	(カ) 働きやすい職場環境づくりの推進	①性別を問わず働きやすく、安全な環境づくり ▶時短勤務の導入や育児休暇取得の奨励等、性別を問わず育児に参加できる職場環境づくりに取り組んだ。今後も継続を要する。【実施済(継続)】 ②DXによる環境改善 ▶取締役会の一部リモート化や勤務管理システムの機能改善、ウェブ会議システムの導入等のデジタル技術を活用した業務改善を通じ、効率性向上とともに良好な就業環境の確保を図った。今後も取組みの継続を要する。【実施済(継続)】 ③施設整備 ▶仮眠室の改修等の施設整備を実施するとともに、各部門において作業効率・業務環境の改善に資する施設整備の継続的な検討を行った。今後も継続を要する。【一部実施済】
	(キ) コンプライアンスの徹底や倫理意識の向上	①コンプライアンス・ハラスメントに対する意識向上策の実施 ▶新規採用者等の社員を対象にハラスメント研修を実施するとともに、社内誌での情報提供を通じて意識啓発を図った。今後も取組みの継続を要する。【実施済(継続)】

(ウ) 総括

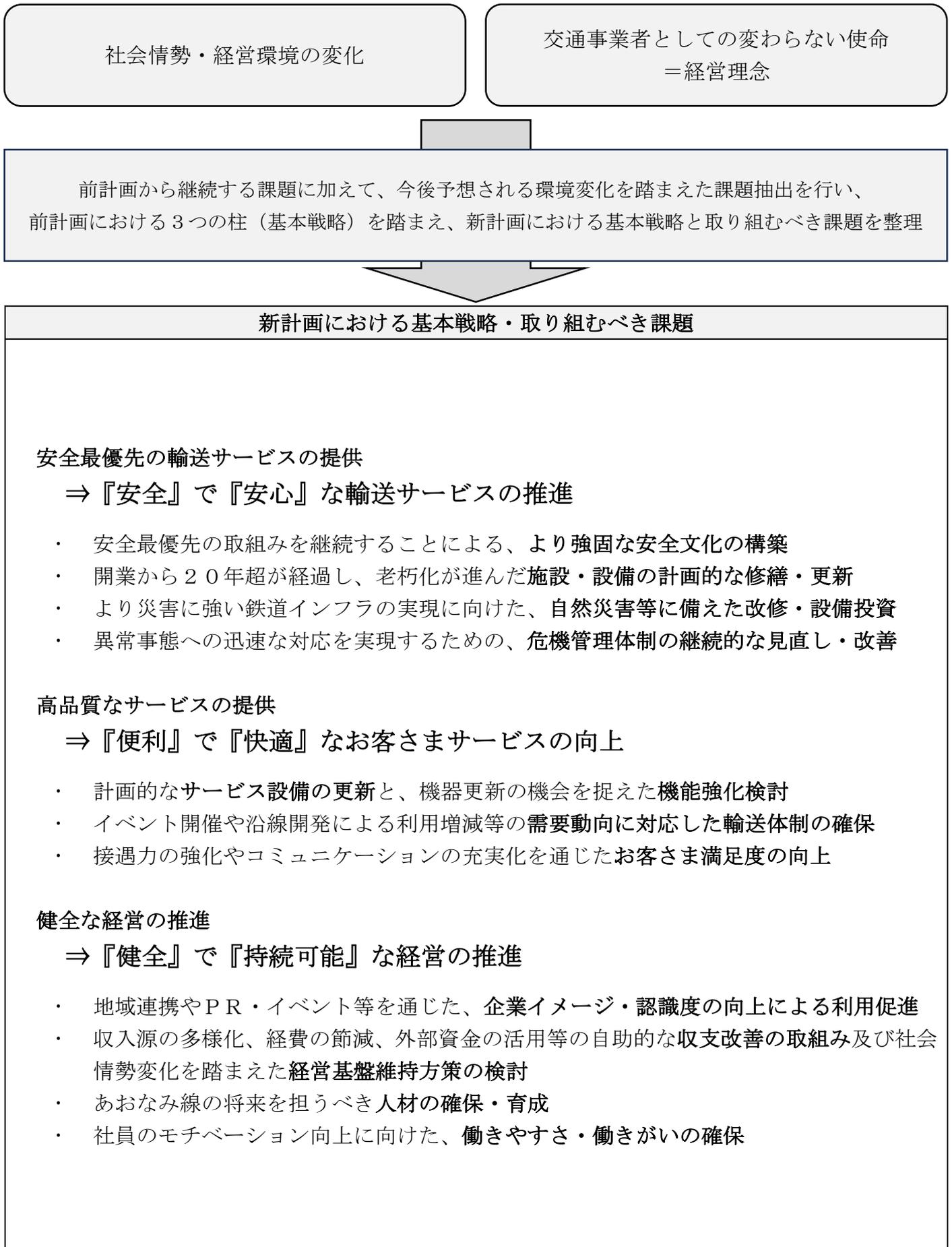
① 前計画の達成状況・振り返り

- ◇ 計画期間中は輸送人員・旅客運輸収入とも新型コロナウイルスの影響からの回復基調が見られ、収支面では令和5年度に経常黒字転換を達成したのち、続く令和6・7年度を含めて3期連続で経常黒字を計上する見込みである。
- ◇ 設備投資については、電力貯蔵装置に替えて電気設備の浸水対策を優先検討するなど設備投資計画を時点更新するとともに、アジア・アジアパラ競技大会の開催に向けた国・市からの補助金や銀行借入等を積極的に活用することで、安全・安定輸送や利便性向上に関わる設備更新・改修等を概ね想定通りに進めることができた。
- ◇ 安全最優先の輸送サービスの提供に関しては、運輸安全マネジメントに基づく取組みの徹底、施設等の計画的な修繕・更新の実施、研修や訓練の実施による社員の力量向上、自然災害等に備えた取組みの実施による危機管理体制の確立を図り、計画期間中の鉄道運転事故・インシデントゼロを達成した。
- ◇ 高品質なサービスの提供に関しては、列車位置情報の提供やトイレの洋式化などの利便性・快適性の向上に資する取組みを実施したほか、イベント対応体制の強化や接客接客研修を通し、お客さま対応能力の向上を図った。
- ◇ 健全な経営の推進に関しては、開業20周年事業をはじめとした沿線施設等との連携拡充等による収入増加の取組み、LED照明化等による維持管理コスト削減の取組み等を進めるとともに、働きやすい職場環境づくりの取組みや社員の意欲向上策、コンプライアンス徹底等の意識啓発を実施した。
- ◇ 前計画の2つのビジョンのうち、『ウィズコロナ・ポストコロナの環境変化を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復』については、足元の収支状況からみて一定の実現を果たしたと評価できる一方、『安全最優先の取組みを更に発展させ、人口減少社会の到来にも対応できる、お客さまや地域社会の皆さまから信頼される企業』の実現に向けては、以降も継続すべき取組み内容が持ち越される形となった。

② 新計画の策定に向けて

- ◇ 今後を目を向けると、あおなみ線を取り巻く社会情勢の変化として、物価・人件費の高騰、アジア・アジアパラ競技大会の影響、沿線施設の競合先となる新施設の開業、働き方・サービスの提供に対する意識変化などが予想され、当社の経営環境は流動性を増しつつある。
- ◇ 絶えず変化する社会情勢・経営環境の中で、経営理念に掲げる当社の変わらない使命を果たしていくためには、前計画から継続すべき取組み、残された課題を新計画へ確実に引き継いでいくとともに、予想される環境変化を新たな視点として取り入れていく必要がある。
- ◇ 新計画に向けては、現行の計画ビジョン『安全最優先の取組みを更に発展させ、人口減少社会の到来にも対応できる、お客さまや地域社会の皆さまから信頼される企業』を引継ぎ、これまでの取組みを時勢に即した形で継続・発展させていくアプローチが想定される。

3 新計画における基本戦略・取り組むべき課題



4 計画

(1) 計画期間

- ▶令和8年度～令和13年度までの6年間

(2) 計画方針

- ▶計画期間のうち前半3年間（令和8年度～令和10年度）については、具体的な計画目標を設定するとともに、併せて名古屋市の「経営戦略計画」に位置づける。
- ▶前半3年間の終了までに中間評価を実施し、後半3年間（令和11年度～令和13年度）に向けた計画の見直し・目標設定を行う。
- ▶以降、3年毎を目途に経営計画の見直しを継続する。

(3) 基本戦略及び具体的な取組み

基本戦略Ⅰ 『安全』で『安心』な輸送サービスの推進

安全最優先の企業風土や安全の確保に向けた仕組みの浸透を図るとともに、安全運行に必要な不可欠な設備の修繕・更新を計画的に進めていくことで、『安全』で『安心』な輸送サービスの提供を目指します。

(ア) より強固な安全文化の構築

- ① 重点実施事項に沿った取組み
- ② 標準化・明文化によるルール遵守の徹底
- ③ 情報共有の推進

(イ) 施設・設備の計画的な修繕・更新

- ① 施設・設備の老朽化対策
- ② 車両搭載機器の更新

(ウ) 自然災害等に備えた改修・設備投資

- ① 高架橋等の耐震対策
- ② 電気設備の浸水対策
- ③ 荒子駅折り返し設備の整備

(エ) 危機管理体制の継続的な見直し・改善

- ① 異常時対応訓練の充実
- ② 事業継続計画（BCP）の検証・改善

基本戦略Ⅱ 『便利』で『快適』なお客さまサービスの向上

お客さまサービスに対する社員の意識向上やお客さまにとって利用しやすい環境づくりなどの取組みを進めることで、『便利』で『快適』なお客さまサービスの提供を目指します。

- (ア) サービス設備の更新・機能強化検討
 - ① 駅舎の補修
 - ② 駅務機器の更新
 - ③ キャッシュレス化の検討
- (イ) 需要動向に対応した輸送体制の確保
 - ① 沿線イベントへの柔軟な対応
 - ② 沿線開発への対応
- (ウ) お客さま満足度の向上
 - ① 接客・接遇に関する社員教育の実施
 - ② お客さま意見への対応力向上
 - ③ 外国人旅客への対応力向上

基本戦略Ⅲ 『健全』で『持続可能』な経営の推進

あおなみ線の利用促進や収支・経営基盤の安定化に向けた取組みを進めるとともに、将来を担う人材の確保や育成を図ることで、『健全』で『持続可能』な経営の推進を目指します。

- (ア) 企業イメージ・認識度の向上による利用促進
 - ① 地域連携の強化
 - ② PR・イベントの強化
- (イ) 収支改善の取組み及び経営基盤維持方策の検討
 - ① 収入源の多様化
 - ② 経費削減
 - ③ 外部資金の活用
 - ④ 経営基盤維持方策の検討
- (ウ) 人材の確保・育成
 - ① 計画的な人員採用の推進
 - ② 技術・ノウハウの継承
 - ③ 接遇能力の向上
- (エ) 働きやすさ・働きがいの確保
 - ① 職場環境の改善
 - ② 社員の意欲向上策
 - ③ コンプライアンスの遵守

(4) 計画目標

指標	令和8年度	令和9年度	令和10年度
輸送人員	43,900 人/日	45,600 人/日	45,200 人/日
旅客運輸収入	2,824 百万円	3,030 百万円	2,995 百万円
経常損益	△151 百万円	119 百万円	7 百万円
鉄道運転事故 インシデント ※ 輸送障害	0 件	0 件	0 件

※いずれも当社に起因するものについて

(5) 計画期間中の主要な設備投資予定

内容	実施時期	概算額
・車両インバータ制御装置等の更新	令和8年度	4.0 億円
・配電室複合保護継電器の更新	令和8～11年度	2.1 億円
・高架橋等の耐震対策	令和8～11年度	1.9 億円
・電気設備の浸水対策	令和8～11年度	1.3 億円
・配電室高圧真空遮断器の更新	令和8～12年度	1.4 億円
・駅務機器（複合機、マルチ処理機等）の更新	令和10年度	5.7 億円
・列車無線地上装置の更新	令和10年度	1.0 億円
・名古屋貨物ターミナル連動装置（本線部分）の更新	令和11年度	2.0 億円
・駅務機器（券売機、改札機）の更新	令和12年度	8.0 億円
・車両ATS装置の更新	令和13年度	1.0 億円

5 輸送人員見込み・収支見込み

(1) 輸送人員見込み（令和8年度～17年度）

（単位：人／日）

8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
43,900	45,600	45,200	45,800	45,800	46,100	45,600	45,800	45,600	45,700

- ◇ 通勤定期乗車券による利用者は、沿線（中川区、港区）の令和8年度以降の20～64歳の人口増減（推計）をベースに、社会増による利用者増及びロジクロス名古屋みなどの稼働開始による400人／日の増を見込んで設定。併せて、令和14年度以降は、名駅～笹島間の地下通路開通の影響を勘案。
- ◇ 通学定期乗車券による利用者は、沿線の15～19歳の人口増減（推計）をベースに、令和11年度以降は名古屋競馬場跡地への高校立地による400人／日の増を見込んで設定。
- ◇ 敬老パスによる利用者は、沿線の65～74歳の人口増減（推計）をベースに設定。
- ◇ 福祉特別乗車券による利用者は、令和7年度実績見込み並みの横這いで設定。
- ◇ 上記以外の利用者（普通乗車券、ICカード等）は、令和8年度のアジア・アジアパラ競技大会開催に伴う観戦等の利用増を見込むとともに、大会開催に伴うポートメッセなごやの貸し止めによるイベント減、IGアリーナ、日本ガイシホール、港明地区に新設される名古屋アリーナ（仮称）の稼働に伴うイベント開催施設の競合による減を勘案。また、ロジクロス名古屋みなどの稼働開始に伴う増、2年毎開催の比較的大規模なイベント（モビリティショー、メカトロテック）による増減を加味するとともに、令和14年度以降は、名駅～笹島間の地下通路開通の影響を勘案。

(2) 収支見込み（令和8年度～17年度）

（単位：百万円）

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
営業収益	2,937	3,147	3,111	3,149	3,143
運輸収入	2,824	3,030	2,995	3,032	3,027
営業費用	3,058	3,002	3,082	2,983	3,037
減価償却費	419	476	549	554	630
経常損益	△151	119	7	143	86
設備投資	814	445	1,152	468	1,185
現預金残高	1,683	1,608	845	1,014	521

	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度
営業収益	3,169	3,131	3,149	3,134	3,149
運輸収入	3,047	3,010	3,028	3,011	3,028
営業費用	3,124	3,143	3,135	3,166	3,133
減価償却費	596	634	643	646	636
経常損益	28	△27	0	△44	6
設備投資	270	489	276	641	91
現預金残高	614	557	867	1,314	1,663

（注）1 端数処理により合計等が一致しない場合がある。

（注）2 現預金残高は、各年度末時点の未収金・未払金計上見込みを加除した後の金額。

<参考>沿線開発の動向

これまでの主な沿線開発 (～令和7年度)

平成22年度	① リニア・鉄道館 (金城ふ頭)
平成24年度	② 愛知大学 名古屋キャンパス (ささしまライブ)
平成26年度	③ ロイヤルパークスERささしま (ささしまライブ)
平成28年度	④ 中京テレビ放送本社 (ささしまライブ)
平成29年度	⑤ レゴランド®・ジャパン (金城ふ頭)
	⑥ グローバルゲート (ささしまライブ)
令和4年度	⑦ 名古屋市国際展示場 新第1展示館 (金城ふ頭)
令和7年度	⑧ ロジクロス名古屋みなと (Amazon) (荒子川公園)

今後の主な沿線開発・イベント予定 (令和8年度～)

令和8年度	アジア・アジアパラ競技大会開催 (港北) …柔術、クラッシュ等 (野跡) …サッカー・レスリング等 (金城ふ頭) …スポーツクライミング等
令和9年春	⑨ レゴランド®・ジャパン (拡張) (金城ふ頭)
令和11年度	⑩ 名古屋競馬場跡地再開発 (港北)
	⑪ 名古屋市国際展示場 新第2展示館 (金城ふ頭)

